

SHOW HEY シネマール

★★★

アウトレイジ 最終章

2017年・日本映画

配給/ワーナー・ブラザース映画、オフィス北野・104分

2017(平成29)年10月15日鑑賞

TOHOシネマズ西宮OS

Data

監督・脚本・編集：北野武

出演：ビートたけし／西田敏行／大森南朋／ピエール瀧／松重豊／大杉漣／塩見三省／白竜／名高達男／光石研／原田泰造／池内博之／津田寛治／金田時男／中村育二／岸部一徳

■■■ショートコメント■■■

◆公式ホームページによれば、本作の「イントロダクション」は、次の通りだ。

INTRODUCTION

前作から5年。ついに全面戦争勃発!!

裏社会に生きる男たちの、仁義なき抗争を舞台にした大ヒットシリーズが、3作目にして最終章を迎える。抗争の舞台はシリーズ最大スケールの日本と韓国で展開。些細なトラブルをきっかけに、過去を清算する機会をうかがう大友と、花菱会トップの座をめぐる幹部らの“暴走”がはじまり、[強グループ][花菱会][山王会][賢賢]が入り乱れる“全島暴走”の全面戦争へと突入。キャストには前作で生き残った、ビートたけし、西田敏行、塩見三省、白竜、名高達男、光石研、松重豊、中村育二、金田時男に加え、新たに大森南朋、大杉漣、ピエール瀧、岸部一徳、原田泰造、津田寛治、池内博之など、最終章に相応しい“豪華陣営”の男たちが舞臺。彼らが表で見せる暴力や傲慢な怒る舞いの裏で、背負ってしまった苦悩や悲哀、滑稽な姿も、本シリーズの核心に迫る要素として重厚に描かれる。

果たしてどんな決着をみせるのか？

◆公式ホームページによれば、本作の「ストーリー」は、次の通りだ。

《関東【山王会】vs.関西【花菱会】》の巨大抗争後、大友(ビートたけし)は韓国に渡り、日韓を牛耳るフィクサー張会長(金田時男)の下にいた。そんな折、取引のため韓国出張中の【花菱会】幹部・花田(ピエール瀧)がトラブルを起こし、張会長の手下を殺してしまう。これをきっかけに、《国際的フィクサー【強グループ】vs.巨大暴力団組織【花菱会】》が一触即発の状態に。激怒した大友は、全ての因縁に決着をつけるべく日本に戻ってくる。時を同じくして、その【花菱会】では内紛が勃発していた……。

極悪非道の男たちの壮絶な権力闘争を描いた大ヒットシリーズが、3作目にして最終章を迎える。怒号と大金、銃弾がとびかい、先の読めない〈裏切り〉〈駆け引き〉〈騙し合い〉が連続する!

◆また、公式ホームページによれば、本作の登場人物はワルばかり。その勢力分布図は次のとおりだ。



◆シリーズ3部作の第1作は2010年6月12日公開の『アウトレイジ』（10年）、第2作は2012年10月6日公開の『アウトレイジ ビヨンド』（12年）。両者のストーリーは次の通りだ。

アウトレイジ(極悪非道)たちの、壮絶な権力闘争を描いた大ヒットシリーズ!

アウトレイジ
 OUTRAGE 2010年6月12日公開

物語は、関東一円を仕切る巨大暴力団組織【山王会】の若頭・加藤(三浦友和)が、直参である池元組組長・池元(國村隼)に普言を呈することから始まる。加藤は池元に、吉参の弱小ヤクザ村瀬組の組長(石橋蓮司)との蜜月を怪しみ、ただちに村瀬組を締めよう命令したので。厄介なことになったと焦る池元は、配下にある大友組組長・大友(ビートたけし)に、その役目を任せる。池元の後始末や面倒なことは、いつでも大友の仕事だった。しかし、このいつもと同じと思われた仕事が、男たちの悪の策略により、次々と事件を生み、ついに社会を重んじるヤクザ社会での熾烈な大下克上劇までもを引き起こすことになっていく――。

アウトレイジ
 ビヨンド
 OUTRAGE BEYOND 2012年10月6日公開

前回の抗争から5年後、会長が交代して新体制となり、関東の頂点を極めた暴力団【山王会】は、ついに政治の世界にまで手を伸ばし始めた。巨大ヤクザ組織の壊滅を企てる警察組織は、山王会の過剰な勢力拡大に業を煮やしていた。そこで目を付けたのが、関西の雄である【花菱会】だ。表面きは友好関係を保っている東西の巨大暴力団の対立を目論み、刑事・片岡(小日向文世)は裏で策略を仕掛けていく。そんな中、前回の抗争中に獄中で死んだはずのヤクザ、大友(ビートたけし)が生きていた! 突然出所を告げられた大友。明らかに何かを企み、彼を迎え入れる片岡。警察が仕掛けた巨大な陰謀と抗争の足音が着々と近づいてくる――。

◆本作を鑑賞した10月15日（日曜日）は、衆議院議員総選挙投票日たる10月22日（日曜日）のちょうど1週間前。街の中ではいたるところで選挙カーが走り回り、候補者や支援者が演説をしていた。今回の総選挙では民進党の空中分解と小池（百合子）新党（希望の党）の立ち上げが最大のニュース。その「政治ドラマ（権力闘争）」はメチャ面白いが、北野武（ビートたけし）が監督、脚本、編集し、自ら張グループの世話になっているヤクザ大友役で主演した本作を見ていると、極道の世界も政治家の世界と全く同じだということがよくわかる。

本作でその権力闘争の中枢にいるのは、花菱会若頭の西野（西田敏行）と、濟州島で女を買ったことからトラブルを引き起こした直参幹部の花田（ピエール瀧）の2人だが、その権力闘争の構図はさわめて分かりやすい。民進党代表の前原誠司が小池百合子にコロリと騙されてしまったことは今や誰の目にも明らかだが、本作を見ていると権力闘争を生き抜く上では、花菱会会長の野村（大杉蓮）のような単純な頭ではだめで、西野、若頭補佐の中田（塩見三省）、会長付き若頭補佐の森島（岸部一徳）のような「悪知恵」が不可欠なことがよくわかる。

◆衆議院議員選挙における権力闘争の真っ最中に、本作のような極道の権力闘争を楽しませてもらったことに感謝！もっとも、第2作の『アウトレイジ ビヨンド』では、警視庁の片岡（小日向文世）は大友にあっさり射殺されてしまったが、本作では、警視庁の熱血刑事重田（松重豊）は辞表を叩きつけてしまっただけというのはいかにも中途半端で情けない限り。こりゃ脚本上の手抜き？それとも、北野武監督の視点では、ヤクザの権力闘争に警察はもともとどうでもいい存在・・・？

それにしても、「アウトレイジ」シリーズ3部作の最終章となる本作の、ある意味想定内（？）のあっけない（？）ラストは、これぞ北野武監督の理想とする男の美学なの？それとも・・・？

2017（平成29）年10月19日記